

学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ

100th
UMEMURA
ベストMAX

中京大学スポーツ

Vol.25
2022 12月号



水泳女子インカレ総合優勝・男子6位入賞

宇野昌磨選手 理事長表彰

プロ野球ドラフト 澤井廉選手ヤクルトへ

学園創立100周年記念寄付金クラウドファンディング



(左から)安村学事顧問、梅村総長・理事長、宇野昌磨選手、宇野樹さん、林田スケート部長

第3回梅村学園理事長表彰式を実施

第3回学校法人梅村学園理事長表彰式が10月12日、名古屋キャンパスで行われ、本学に在籍していた宇野昌磨選手が表彰された。

理事長表彰は、教育研究および社会貢献活動で特に顕著な功績があったと認められた人物、また梅村学園、その設置する学校の運営、改革などの推進において顕著な功績があったと認められたときに与えられる。

宇野選手は、本学在籍中の2018年平昌五輪及び2022年北京五輪のフィギュアスケート競技で、2大会連続でメダルを獲得し、梅村学園と中京大学の名を世界に広めた。その功績を称え、今回の表彰となった。

梅村清英総長・理事長は「これからはますますのご活躍を楽しみにしています。日頃の成果が発揮できるように頑張ってください」と激励した。

宇野選手は「トップ選手が現役引退しても若手選手がたくさん出てきています。より自分が成長できるように切磋琢磨していきたいです」と話した。



©フォート・キシモ



競泳インカレ女子が総合力で頂点に 11年ぶり2度目の優勝

「女子は400点獲得を目標にしていました」。水泳部の草薙健太監督(スポーツ学部准教授)は8月28〜31日に開かれた第98回日本学生選手権水泳競技大会(インカレ)をそう振り返った。結果は目標にわずかに届かず391.0点だったが、チームの過去最多得点をマークした。女子は見事、2011年の第87回大会以来11年ぶり2度目の優勝に輝き、インカレでの優勝回数は男子に並んだ。

インカレの学校対抗順位は、男女ともに個人13種目とリレー3種目での獲得得点によって決まる。

中京大女子は大会の4日間にわたって各選手が大健闘。自らの力をしっかりと発揮した。個人種目では優勝者はいなかったものの、200メートルと400メートルの個人メドレーを除く11種目に入賞を果たし、100メートルと200メートル自由形には3選手

が入賞するなど5種目で複数の選手が入賞した。

そして見事なレースを繰り広げたのがリレーだった。大会第2日の400メートル、第3日の400メートルメドレー、最終日の800メートルリレー3種目すべてで表彰台の真ん中に上がった。まさに全選手の総合力によつてかんだ総合優勝だった。

2位の神奈川大に89点の差をつけ、個人種目入賞者数も今大会最多の延べ29人を数えた。

一方、男子も上位の常連校として健闘、205.5点で総合6位に入った。優勝校・日本大の347.5点とは差がついたが、例年通り8位までに与えられるシード権は確保。草薙監督は「来春にはインターハイの優勝者など男子の有望な選手たちも入学を予定しています。現役選手も伸びています。男女とも面白いですよ」と笑顔を見せた。口には出さないが、来季狙っているのは何か。想像に難くない。

短水路日本選手権で 中京大勢 5選手が勝利 世界選手権へ

インカレから2か月後、中京大勢の勢いは続いていた。10月22、23日、東京辰巳国際水泳場で行われた短水路の第64回日本選手権(25m)で、松本周也選手(スポーツ学部4年)が男子100メートル個人メドレーに、神野ゆめ選手(同2年)が女子50メートル自由形に優勝。さらに川本武史選手(トヨタ自動車、スポーツ学部2016年度卒)が男子50メートルバタフライ、高橋美紀選手(林テレンプ、2020年度体育学研究科修了)は女子50メートル背泳ぎ、相馬あい選手(ミキハウス、スポーツ学部2019年度卒)は女子100メートルバタフライで勝利した。この5選手は12月13〜18日、オーストラリア・メルボルンで開催される短水路世界選手権(25m)大会の日本代表にも選出され、草薙監督も日本代表コーチとして参加する。

プロ野球ドラフト 澤井選手ヤクルトへ 三浦投手は西武育成



三浦投手

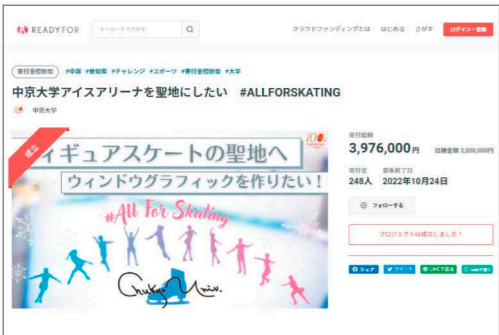
澤井選手

プロ野球のドラフト会議が10月20日に行われ、硬式野球部の澤井廉外野手(スポーツ学部4年)が東京ヤクルトスワローズから3位指名を受けた。さらに育成ドラフトでは、三浦大輝投手(同)が埼玉西武ライオンズから3位の指名を受けた。

この日、1巡目で中京大選手の名指はなく、2巡目の12球団の指名が終わった。思いが高まった3巡目、ヤクルト

が澤井選手を指名し、二巡に中継を見守る部員たちから大きな拍手が沸き起こった。記者会見で澤井選手は「二軍で最初からレギュラーを争い、日本を代表するような選手になりたい」と意気込みを語った。一方、三浦投手は「4年間プロを目指し投手としての向上に注力してきました。少しでも早く支配下選手になって活躍したい」とトレーニングを続けている。

アイスアリーナを「フィギュアスケートの聖地」に 寄付金で象徴となるウィンドウグラフィック設置へ



クラウドファンディングWEBサイト

世界の舞台上で活躍する選手たちが滑りを重ねてきた中京大学アイスアリーナを「フィギュアスケートの聖地」として、生まれ変わらせることを目指し立ち上げられたクラウドファンディングが、多くの人たちの協力のおかげで目標額に達した。本プロジェクトは、梅村学園創立100周年記念事業の一環としてスタートし、寄付総額は397万6000

円にのぼった。寄付金は聖地にふさわしく、アイスアリーナの外壁に歴代オリンピックアンのウィンドウグラフィックが設置される予定となっている。

スケート部長を務める林田健二スポーツ振興部長は「世界に羽ばたく選手を輩出し続ける施設、また皆様をお迎えできるように願っています」と話している。



大学と企業と地域社会をつなぐ 「CHUKYO 6 SPORTS」がスタート 大学スポーツの可能性を追求する



梅村清英学長をはじめ本学関係者、パートナー企業代表者、強化指定6クラブ代表部員

中京大学は、来年の学園創立100周年を契機として、中京大学スポーツが掲げる「競技力向上と社会貢献活動」のさらなる推進を目指すためのプロジェクト「CHUKYO 6 SPORTS」をスタートさせた。

中京大学では授業やクラブ活動などで、数多くのスポーツ競技が実施されているが、このうち、硬式野球、サッカー、陸上競技、水泳、アメリカンフットボール、スケートの6競技を、強化スポーツとして指定している。複数の企業が強化指定6競技を横断的にサポートすることによ

て、「競技能力の向上と社会への貢献活動」という二つのテーマを、産学で着実に進めていくのが目標だ。

背景には、中京大学OBでもある室伏広治さんが長官を務めるスポーツ庁が今年3月に策定した「スポーツ基本計画」の存在も。スポーツを「する」(みる)「させる」といった観点から、大学スポーツ自体の競技振興を図るとともに大学スポーツによる地域振興を促進することで、「感動する大学スポーツ」の実現を示したのがそれである。

地道な活動によって、全国制覇や記録更新、世界大会出場など競技力の向上による個人や大学のブランドアップはもちろんだが、人間力の向上、社会性のある人材育成の場という役割を担う。

社会貢献活動としては、キッズスクールなどスポーツによる地域との連携や、企業や社会との協働から生まれるスポーツビジネスの推進などによってスポーツに関わる人々を増やし、スポーツコミュニティの拠点としての強化を目指す。

中京大学公式ホームページには、CHUKYO 6 SPORTSに関する情報発信のための特設サイトが設けられている。



強化指定6クラブを代表して挨拶するアメリカンフットボール部松田選手

パートナー企業

- 株式会社 F&Cホールディングス
- 株式会社 コプロ・ホールディングス
- 株式会社 ダートフィッシュ・ジャパン
- FUJIMAKI GROUP
- copro
- DART FISH

- 東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社
- 株式会社 不動産SHOPナカジツ
- ミズノ株式会社
- 名鉄観光サービス株式会社
- 東海東京FH
- ナカジツ
- MIZUNO
- 名鉄観光サービス

愛知大学野球秋季リーグ 惜しくも準優勝 最終週まで優勝争いの大健闘

硬式野球部

硬式野球部は愛知大学野球秋季リーグ戦で最終週まで優勝争いを繰り広げたが、惜しくも2位でシーズンを終えた。

コロナ禍の影響もあって変則的に7チームで行われた春季リーグ戦は昨秋に続く2季連続優勝を目指したものの、5勝7敗と負け越しの5位に。半田卓也監督、菊地啓太コーチらも選手たちの精神面も含めてチームの立

て直しに力を注いだ。

本来の勝ち点制の6チームによるリーグ戦に戻った秋季は、第2週に春季優勝の名城大との対戦で緒戦を迎えた。第1週を連勝で勝ち点を挙げていた名城大に対し、まず、漢人友也(スポーツ科学部4年)、三浦大輝(同)投手の継投で2-1の接戦を逃げ切った。第2戦は敗れたが、第3戦を九回裏の逆転サヨナラ勝ちで勝ち点を挙げる好スタートを切った。第

3週も2勝1敗で愛知工業大から、続く第4週は愛知学院大に連勝し、勝ち点を3に伸ばして首位に立った。しかし、第6週の中部大との対戦は3戦とも1点差の接戦の末、1勝2敗で落とした。この間、名城大は勝ち点を重ね、最終週を残してとも7勝4敗勝ち点3で並んだ。そして最終戦の第7

週。名城大が連勝で勝ち点を4としたのに対し、中京大は愛知東邦大との初戦に敗れ、2、3戦を連勝して勝ち点は4で並んだが、勝率の差で涙を飲んだ。準優勝にとどまったが、見どころたっぷりのシーズンだった。



試合に臨む選手達

週。名城大が連勝で勝ち点を4としたのに対し、中京大は愛知東邦大との初戦に敗れ、2、3戦を連勝して勝ち点は4で並んだが、勝率の差で涙を飲んだ。準優勝にとどまったが、見どころたっぷりのシーズンだった。



敢闘賞を受賞した漢人投手



ベストナインに選出された土井選手

東海学生リーグ戦 2年連続全勝優勝 東海の名門復活へ

アメリカンフットボール部

とリードした。試合は延長までもつれる接戦となったが、35-14の完勝で幕を閉じた。昨年の優勝が2001年以来、20年ぶりの単独優勝だったが、今年も単独優勝を果たしたことで「東海の名門」復活への第一歩を踏み出した。

そして東海代表として出場した全日本大学選手権では、1回戦はシードされ、11月19日に名古屋市港サッカー場で行われた2回戦で東北代表の東北大と対戦した。試合は接戦となったが、タイブレークの末20-26で惜敗した。



2年連続全勝優勝に喜ぶアメフト部一同

アメリカンフットボール部は、東海学生リーグ戦で2年連続21回目の優勝に輝いた。成績は昨年に続き、5戦全勝の完全制覇だった。

最終戦は10月29日。相手は昨シーズン、全勝同士の対決で優勝を争ったライバル・名城大。昨年同様、中京大が先行する展開になり、第2クォーターを終えて21-0



果敢に攻める松田選手

東海学生サッカーリーグ3位 総理大臣杯、インカレへの出場決定

サッカー部

半年余りに及んだ2022年度第61回東海学生サッカーリーグ戦は11月に幕を閉じた。12チームで構成される1部リーグで、最後まで優勝を演じた中京大は、21試合14勝1分6敗・勝ち点43の成績で第3位となった。昨年の2位には1つ及ばなかったが、3位以内のチームに与えられる2022年度第71回全日本大学サッカー選手権大会(インカレ)への参加資格を得て、優勝の静岡産業大(リーグ戦勝ち点48)、2位常葉大(同46)とともに12月8日開幕の大会への出場が決まった。組み合わせは、8日の1回戦が九州第1代表の福岡大と、これを勝ち上げれば11日の2回戦は関東第3代表の筑波大との対戦だ。誌面の都合上、この結果をお知らせできないが、すでに2回戦までは終



水口主将

了している。ぜひ、チェックを。また、8月の第46回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントに東海第1代表として出場し、1回戦はシードされたが、2回戦で北信越代表の新潟医療福祉大に敗れた。ちなみに中京大は2010年度の同トーナメントで準優勝している。

2022〜23スケート競技シーズンの幕を開けた。今年2月の北京冬季五輪では、フィギュアスケート団体で銅メダルを獲得した日本、また男子シングルでは二人の日本選手が表彰台に上がった。男子シングルの銅メダルは宇野昌磨選手(トヨタ自動車)、団体銅メダルのメンバーにも宇野選手は入り、ペアで三浦璃来選手(スポーツ科学部2年)・木原龍一(木下グループ・スポーツ科学部2014年度卒)の中京大勢が貢献した。さらに男子シングル銀メダルの鍵山優真選手(同1年)も4月に中京大に入学し、中京大勢の一員として加わった。しかし、北京五輪のヒーローたちの頭の中にはすでに3年後のミラノ冬季五輪での戦いが頭の中に描かれているようだ。

2022〜23スケート競技シーズン(GP)シリーズが行われ、第3戦のフランスGPと11月18日に札幌市でのGP第5戦NHK杯でも2位に入った山本草太選手(同3年)と、第2戦のスケートカナダ、第5戦のNHK杯に優勝した宇野選手はGPファイナルに臨んだ。今季に入り、三浦・木原選手組は日本選手史上初のGP2連勝し、りくりゅう、ペアとして脚光を浴びている。一方、ショートトラックスプリントスケートも10月初めの全日本距離別選手権で本格的にシーズンインした。この大会では高橋花菜選手(同2年)が女子1500メートルで1位になるなど、中京大勢はほぼすべての種目で好レースを展開し、5選手が世界大会の日本代表入りを決めた。現段階ではワールドカップ(W杯)第1〜4戦と四大陸



三浦・木原ペア

選手権の代表に高橋選手、林康生選手(同1年)、平井亜実選手(トヨタ自動車・スポーツ科学部2019年度卒)、吉永一貴選手(同2021年度卒)の4人、林選手は来年1月にドイツで行われる世界ジュニア選手権にも出場する。やはり来年1月の米・レークプラシッドでのワールドユニバーシテイゲームズ(WUG)の代表には中島未莉選手(スポーツ科学部1年)が選ばれ、高橋選手も出場する。

今季のインカレは低迷 短距離の若手コーチにも期待

陸上競技部

陸上競技部は9月9〜11日に京都市のたけびしスタジアム京都で開催された第91回(女子第74回)日本学生陸上競技対校選手権大会(インカレ)を、まさかの結果で終えた。総合順位は男子が26位(8得点)、女子は入賞者がなく、得点なしだった。

女子は過去4度の優勝を果たし、男子も優勝こそないものの、ともにトップ10の常連として自他ともに認められた存在である。中でも短



(左から)川端コーチ、青戸副部長、市川コーチ、福永コーチ

距離は、かつて世界大会などでのわが国勢の活躍の一翼を担ってきた。それだけに今年就任した短距離の若手コーチである、女子選手担当の市川華菜コーチ、男子を指導する川端魁人コーチ、さらに24年のパリパラリンピック400メートルでメダル獲得を目指す福永凌太コーチは「まず短距離から復活したい」と力を込めた。

青戸慎司陸上競技部副部長の指導のもとで成長してきた3人のコーチは「選手一人ひとりの自己ベスト更新を大切にしながら、競技者としてだけでなく、社会人としての人間性も備えられるよう応援していきたい」と口をそろえる。青戸イズムの伝承と若手コーチたちの意欲、選手たちの努力の成果が楽しみだ。焦ることなく、ゆつくりと見守りたい。

フィギュア、ショートトラックともに 中京大勢 今季も世界へ

スケート部

男子バスケットボール部 全日本大学バスケットボール新人戦3位



チームを牽引した高橋選手

男子バスケットボール部が、2022年度全日本大学バスケットボール新人戦で3位という結果を残したことを受け、8月30日、梅村清英総長・理事長、学長へ報告に訪れた。同部は1997年に全国大会で4位となっており、今回最高位を更新した。

高橋快成選手(スポーツ科学部1年)は「チーム一丸

となって全国大会で結果を残すことができました。サポートしてくれた方々に感謝しています」と振り返り、中野友都選手(同2年)は「3位という結果に満足せず優勝目指して頑張りたいです」と語った。梅村学長は「全国大会3位、おめでとうございます。引き続きけがに気を付けて頑張ってください」と激励した。

女子ソフトボール部 全日本大学女子ソフトボール選手権大会3位



勝利の犠牲フライを放った榊原選手(日体大戦で) ©UNIVAS

女子ソフトボール部は、第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会(インカレ)で3位という結果を残したことを受け、10月6日、梅村清英総長・理事長、学長を表敬訪問した。

主将の出羽瑞果選手(スポーツ科学部4年)は「日本」を目指してきました。3位という結果に悔し

い気持ちもありますが、一人一人何をすべきか考え、個々ではなくチーム一丸となって戦うという意識を持って臨みました」と振り返った。

梅村総長・理事長、学長は「チーム一丸となって戦う結果に敬意を表します。今後ともそれぞれの活躍の場で頑張ってください」とエールを送った。

アルティメット部 全日本大学 アルティメット 選手権大会 (インカレ)準優勝

第33回全日本大学アルティメット選手権大会が10月1、2日に行われ、アルティメット部(チーム名:FLIPPERS)がオープン部門で準優勝を果たした。

また、ウイメンズ部門でも、同部(チーム名:Naughty Kids)は4位という結果を残した。

同大会は、フライングディスク競技「アルティメット」において、全国の大学チームの日本一を決定する大会、本学から出場した2チームは、中部地区予選とともに1位で通過し、全国大会へ出場した。



©UNIVAS

テコンドー全日本学生選手権 3人の選手がメダルを獲得

第15回全日本学生テコンドー選手権大会が9月11日、横浜清風高等学校体育館で行われ、キョルギ競技で本学の学生3人がメダルを獲得した。

優勝した森本理子選手(スポーツ科学部1年)は、



(左から)森本真央選手、森本理子選手、大島かれん選手

- 女子46kg級
1位 大島かれん選手
(スポーツ科学部1年)
- 女子53kg級
3位 森本真央選手
(スポーツ科学部4年)
- 女子57kg級
1位 森本理子選手
(スポーツ科学部1年)

「練習通りに技が決まって嬉しかった。押して蹴る練習や、上段を決める練習などがうまく決まったので良かったです」と試合を振り返った。森本選手は12月に行われる全日本選手権にも出場する。

大島かれん選手(同)は、6月に行われたアジア選手権では3位で銅メダルを獲得し、今回の大会では見事、学生日本に輝き、キョルギ女子で最優秀選手賞を獲得した。

試合後には、「指導してくださった先生や練習を共にした仲間、支えてくれた両親のために優勝することができて、とても嬉しく思います」と感謝の言葉を述べた。



大島かれん選手(右) ©UNIVAS

女子ハンドボール部 服部選手 卒業後は日本リーグ「オムロン」へ

女子ハンドボール部のエース服部沙也加選手(スポーツ科学部4年)は来春の卒業後は、日本リーグの「オムロン」でプレーすることが決まった。

女子ハンドボール部は東海学生春季、秋季リーグをともに全勝で制覇した。11月初旬に行われたインカレは3位入賞の筑波大に1回戦で敗れたが、新年1月5日に開幕する日本選手権大会への出場は、東海予選を勝ち抜いて出場を決めている。これらの試合でチームの中心選手として活躍した服部選手は、三重



服部選手(左)と菊地選手

で活躍した服部選手は、三重県の四日市商高3年時に福井国体で優勝するなど高校時代からの期待の選手で、中京大でも順調に成長した。

現在、日本リーグ2位のオムロンは熊本市に本拠を置く名門チーム。春季リーグ初戦での服部選手のプレーぶりをチーム関係者が見に来て、「ぜひ熊本へ」と呼びかけた。実はオムロン以外からも6チームから勧誘があった服部選手だが、「以前から日本リーグの試合は映像で見っていて、そのコートに立ちたいと思っていた」とオムロン入りを決めた。

船木浩斗監督は「アスリートとして成長し、常にチームで自分の役割を果たしたいという気持ちでプレーしている」と評価。また、主将の菊地美羽選手(同)も日本リーグの三重バイレットアイリス入りが決まり、船木監督も同級生同士の対戦を楽しみにしているようだ。

あいにくの空模様にも親子の笑顔あふれる 「中京大学子どもスポーツフェスタ」開催

中京大学子どもスポーツフェスタが11月13日、豊田キャンパスで開かれた。数日前からの天気予報通り、昼前からあいにくの雨模様となり、一部のイベントが中止となったが、訪れた670組の家族合わせて約2400人がスポーツと触れ合った。さまざまな競技の教室や体験がキャンパス全体を使って行われ、会場には一日中、親子の真剣な表情と笑顔があふれていた。



人力発電遊園地

子どもスポーツフェスタは、地域の子どもたちにスポーツの楽しさ、面白さを知ってもらうと2019年に始まった。第1回は、日本中の青空を豊田に集めたように絶好の天候のもと多くの参加者が訪れ、「楽しさ、面白さはもちろん、少しスポーツの意味もわかったような気もする」と笑顔を見せた。

今年、雨のため野球とサッカーの教室が中止となり、かけっこ教室は陸上競技場から屋内走路に会場を移した。ただ、参加者は屋内レースの公式戦も行える施設に驚いた様子で、普段立ち入れない場所での教室に参加できたことで「うれしい」と話す人も少なくなかった。参加者に感想を聞くと、「来年は晴れてほしい」と早くも次回のことを口にする人も多く、「来年、多くのスポーツを体験してみたい」という声が多かった。



受付



かけっこ教室



マスコットキャラクター「チュール」

子どもたちと高齢者にスポーツとのふれあいを 「イーグルススポーツスクール」開講

豊田市と中京大学が主催する「豊田市×中京大学イーグルススポーツスクール」でスポーツとの触れ合いを楽しむ人たちが増えている。イーグルススポーツスクールの対象は、子どもたちと高齢者を対象に、スポーツとの出会いや、体力の向上などを目的にした事業で、豊田市地域スポーツ好循環コンソーシアムと、公益財団法人豊田市スポーツ協会が共催している。



はじめの一步サッカー教室

イーグルススポーツスクールの会場は、グラウンドをはじめ、体育館、プール、アイススケート場など設備が豊富な中京大学豊田キャンパス内に設けられている。

今年度は、春季に「はじめの一步」と称して2〜4歳を対象としたサッカー教室、夏季には小学生を対象にクローリング、平泳ぎの2種目の水泳教室、またアイスアリーナでは小学1〜3年対象の「はじめてのスケート教室」を開講。そして秋季には小学生対象の「秋の運動会直前かけっこ教室」が開かれた。また、通年教室として、「CHU KYOマスターズ水泳教室」を開講。冬季は、小学1〜3年の「サッカー部員と一緒に楽しむサッカー教室」、「はじめての野球教室」、小学1〜4年の「楽しんで体の使い方を覚える運動教室」などが同日開催されている。

中京大学×スぺシャルオリンピックス日本 トークイベント開催

中京大学と公益財団法人スぺシャルオリンピックス日本(以下「SON」)は、スポーツを通してインクルーシブな社会をつくるための取り組みについて共有・発信を目的とするトークイベント「みんなで一緒に考える！スポーツを通してインクルーシブな社会づくり」を9月17日、豊田キャンパスで開催した。



グループワークの様子

SONの有森裕子理事長をはじめ、SONの理事を務める帝京科学大学教育人間科学部の岩沼総一朗准教授、ロンドン五輪柔道男子60キロ級銀メダリスト平岡拓晃さんが登壇し「中京大学×SONの連携が目指すもの」をテーマにトークセッションが行われた。

後半は「インクルーシブな社会づくりについて考える」をテーマに豊田市やトヨタ自動車株式会社で実際に行われている産官学の取り組みが紹介された。その後、参加者によるグループワークが行われ「インクルーシブな社会の実現のためのアイデア」について活発な話し合いが行われた。

また、ボッチャ体験コーナーや、メダル、サインボールなどの特設ブースが設けられ、SONについてより理解を深めるイベントとなった。

新体操部が演技披露 「フェアリージャパンPOLA新体操特別演技会」

「フェアリージャパンPOLA」新体操特別演技会が8月3日、豊田市のスカイホール豊田で行われ、本学の新体操部が個人と団体の演技をそれぞれ披露した。



個人(ボール)

齊藤萌久 選手(現代社会学部2年)



団体(リボンとボール)

この演技会は、多くの人々に新体操の魅力を知ってもらうため、豊田市、トヨタ自動車株式会社、中京大学が企画をした。新体操日本代表フェアリージャパンPOLAもコロナ禍により演技会の数が少なく、両者の思いが一致し、実現に至った。



新体操日本代表フェアリージャパンPOLA団体チーム



中京大学新体操部と新体操日本代表フェアリージャパンPOLA団体チーム
※写真撮影時のみマスクを外しています

中京大学 新体操部団体メンバー

- 藤本未来 選手
(スポーツ学部4年)
- 後藤聖奈 選手
(スポーツ学部4年)
- 織田佑菜 選手
(スポーツ学部4年)
- 小平はるか 選手
(スポーツ学部3年)
- 島田せりな 選手
(スポーツ学部2年)

中京大 中京高校スポーツ



総合優勝を果たした陸上競技部女子

徳島インターハイ2022 女子総合優勝

陸上競技部

令和4年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会秩父宮賜杯第75回全国高等学校陸上競技対校選手権大会が、8月3〜7日に徳島県(鳴門・大塚スポーツパークポカリスエットスタジアム)にて開催された。

今大会は2年ぶりの有観客での開催となり、保護者の方々やOB・OGの方々をはじめ、多くの方々からの温かい応援があった。

結果は、昨年の福井インターハイに引き続き、女子は3度目となる総合優勝を果たした。女子4×100mR優勝、女子100m藏重みう選手が優勝、女子100mH・七種競技林美希選手も優勝、その他入賞種目も多数あり、44点という高得点での優勝となった。また、男子も4×100mRでは3位、男子走り高跳び加古彩人選手は5位、男子800m山田直希選手も8位、という成績を収めた。

また、第106回日本陸上競技選手権大会・リレー競技(東京10月1〜2日)、とちぎ国体2022(栃木10月6〜10日)、第16回U18/第53回U16陸上競技大会(愛媛10月21〜23日)に出場した。

第100回学園祭開催

学校行事

● 体育祭

第100回体育祭が9月27日、中京大学豊田キャンパスで開催された。

3年ぶりの体育祭で在校生にとっては高校生活初めての体育祭。これまでは1日かけて全校で実施していたが、感染対策をしつつ学校行事も少しずつコロナ以前の状態に戻りつつある。

また同日、豊田キャンパス内を散策しながらアイスアリーナ、フィットネスプラザ、スポーツミュージアムの施設見学が行われた。



部活動対抗リレー

● 文化祭

9月29日・30日の2日間、文化祭が開催された。今年度のテーマは「世紀祭」。残念ながら一般公開は中止となるなど制約が多い中での開催となったが、生徒たちができる範囲で楽しむ「中京生のための文化祭」となった。見ごたえのあるクラス企画、ステージ発表、部活動の成果発表などなど生徒たちのエネルギーあふれた文化祭となった。



お揃いのクラスTシャツで文化祭を楽しむ生徒たち

生徒アンケートより感想一部抜粋

- 体育祭、文化祭全てが楽しかったです。高校生活の中で一番思い出に残った1週間でした。
- 高校最後の文化祭で、本当に心から楽しめました。個人的に体育館で行われた中夜祭がとても良かったです。携わった方々全員に感謝の気持ちで一杯です。素敵な思い出をありがとうございました。
- 初めての文化祭とても楽しめました!謎解きも楽しかったです!
- 私はこの文化祭で縦のつながりを感じられました。ここまで他クラス、他学年と接する機会はないのでいい機会でした、開催できて良かったです!

CHUKYO

G

6 SPORTS

— Challenge & Connect —

大学スポーツを変えたい。

中京大学はそんな想いを胸に、2022年夏「CHUKYO 6 SPORTS」を創設しました。

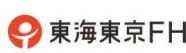
大学スポーツには、まだまだたくさんの可能性があると思っています。

選手の競技力向上、人間としての人格陶冶、地域のスポーツ振興や地域経済の活性化、そしてエンターテインメントに至るまで。

例えば、ある晴れた日曜日、近くに住む方々がふらっと試合会場に来てくれる。たまには自分もカラダを動かしてみようかとジョギングを始める。観戦に来た子どもたちが「僕もこのチームでプレーしたい」と目を輝かせ、将来の大きな夢を見つけて帰る。勝敗の行方に感情を震わせ、家族や友人、知人と親交を深め、世代を超えた仲間たちと心を通わせる。大学スポーツが、子どもたちの憧れとなり、街のシンボルとなり、地域の誇りとなってゆく。私たちはそんな景色をつくりたい。

CHUKYO 6 SPORTSは、大学と企業と地域社会が共につながり、国内外で活躍するアスリートの育成と地域のスポーツ振興を推進するこれまでにないプロジェクトです。中京大学は学園創立100周年を機に、価値ある豊かなスポーツ文化を育んでいきます。ご期待ください。

OFFICIAL SUPPORTER



CHUKYO 6 SPORTS

検索



発行 / 中京大学
〒466-8666 名古屋市中昭和区八事本町101-2
【広報課】 TEL 052-835-7135
【スポーツ振興部】 TEL 0565-46-6935

